

申請者	学科名	デザイン学部	職名	助教	氏名	石 王美 印
調査研究課題	高齢者向けのコミュニケーションコンテンツ開発研究					
交付決定額	200 (千円)					
調査研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	石 王美	造形デザイン学科・助手	コンテンツ・インタラクションデザイン	研究の責任者	
	分担者	梁 元碩 潘 榮煥	芝浦工業大学デザイン工学部 デザイン工学科・准教授 韓国国民大学TEDデザイン大学院・インタラクションデザイン・助教	感性科学、インタフェースデザイン インタラクションデザイン、ユーザー中心デザイン	研究調査と実験の協力 システム設計の協力	
調査研究実績の概要	<p>H25年度独創的研究を通じて高齢者を自然年齢と身体自立レベルに分類し、3グループに分け、各グループのコミュニケーション実態についてコンテキストインクエイアリー技法を用いて調査分析した。先行研究の結論から家族や友人とより活発なコミュニケーションをしたいが、機器使用の難しさや体の調子などの問題があり、あまり出来ないことがわかった。</p> <p>グループ1（青年老人）はまだ自分を高齢者を認知したくない傾向があり、仕事を探したり、様々な集まりに参加するなど、社会的な活動が多い。コミュニケーションツールとして一般携帯電話、スマートフォン、パソコンを主に使っていることがわかった。グループ2（中年老人）は健康への関心や知人との関係維持のニーズがあるが、1グループより活動領域が限定されていることがわかった。コミュニケーションツールの使い方も限られて、主には一般携帯電話や家の電話を使っているが、スマートフォンやパソコンも使いたいとの意見があった。グループ3（老年老人）は調査対象の全員が積極的な介抱が必要な状況で、視覚と聴覚の退化と共に体を動かすことが自由に出来ない状況であった。</p> <p>H26年度はこのような先行研究の結果を基にグループ1と2をターゲットにし、高齢者のコミュニケーションをもっと豊かにするモノやサービスについて提案した。</p> <p>アイデアワークショップはデザインを具体化する際、様々なアイデアを自由に出して少しずつ大きな形態を作る方法である。アイデアを出せるため、使う技法は様々で本研究はシナリオ作成法である。参加者は製品デザイン及び情報デザインを専攻している修士課程生15人で、ワークショップの前、先行研究からの結果である高齢者の日常生活やコミュニケーションについてのニーズ等の情報を共有した。</p>					

調査研究実績
の概要

ワークショップの実施

アイデアワークショップは2014年5月17日 5名ずつ、3グループに分けて実施された。実現可能生が無いアイデアは除いて各グループで1案ずつ提案され、発表・共有した。
しかし本研究では2つのアイデアについて提案する。なぜなら、グループ3が提案した「デジタル杖」は位置情報サービスや電子財布機能は高齢者の生活をより便利にしてくれるサービスであるが、コミュニケーション自体を活性化させるツールとしての役割は弱いし、実際、使うときの行き先の入力など高齢者のインタラクションのスキルまで考慮できなかったためである。

ワークショップの際応用したデザイン技法

シナリオ作成法はアイデアを具体化する際、使われている方法の一つで、目標にするデザインの使い方を想像させ、それらの具体的な使用手順や関わりを準備に説明すればその表現は自然と物語を構成する。この物語をシナリオと呼びし、文字で書くプロトタイプとも言える。
つまり、シナリオ作成法は製品やサービスの具体的な使い方について登場人物を設定し、ストーリーを作ることによって、ワークショップの参加者がアイデアを出しやすくしてくれる。
シナリオを記述する代表的な表現は文章による表現（テキスト形式）である。Dan Saffer²はシナリオ作成法について「ストーリーボード、ワイヤーフレームでは何日、何時間かかるプロトタイプを短時間に完成することができる」で説明しているメリットがある反面、シナリオに没頭し目的である製品やサービスの具現可能性は考えず、行う場合もあるのでシナリオ作成法を応用するとき、技術的なアドバイザーを決めて行うことが重要であると判断される。

ワークショップの結果

1.シナリオ1 テレビ家族アルバム

テレビは高齢者が違和感無く使用できる数少ない電子製品の一つで先行研究では日常生活で最もよく使っていることがわかった。シナリオ1はテレビをコミュニケーションのツールとして活用することが提案された。

スマートテレビでは『familya』アプリをダウンロードし、インストールする方法で、既存のテレビはset-up boxを追加で設置することで使える。アプリはSNSと連携しており、子供は今まで通り使うことが可能である。アップする際、コンテンツの公開にチェックすることで相手によって見えるコンテンツを区別する。高齢者が見たコンテンツは自動的に表示されアップした家族が簡単に確認することか出来る

2.お年寄り専用腕時計

最近身体バイオリズムを分析するスマート腕時計が販売されている。これに着目し、お年寄り専用の腕時計を提案する。身体の変化を登録した病院に自動転送、時計で知ることが出来ない外傷の場合緊急ボタンを押すことで連絡が取れる。

他にも通話機能、音声で文字に変換して転送することが可能である。



テレビ家族写真集のシステムとイメージ

高齢者専用腕時計のシステムとイメージ

高齢者が長時間使う製品テレビをコミュニケーションの道具として使うことと、身体情報がチェック出来る腕時計を医療サービス関係者とつながることも技術的に問題は無いと考えられる。今後は、提案されたサービスについてユーザーインターフェースデザインや製品デザイン等、もっと具体的なアプローチを行いたいと思っている。

成果資料目録

日本感性工学会2014（中央大学 後楽園キャンパス）口頭発表（9月4日）

タイトル：

高齢者のコミュニケーション拡張のためのデザイン研究

シナリオ作成法を用いたアイデアワークショップ